

【令和5年6月改訂の主なポイント】

前回提言の21提案のうち12提案について改訂し、新たに2提案と2参考資料を追加しました。

第一に、医療機関が断水した場合には人命の危機に直結することから、前回の提言を踏まえ、より進んだ医療界への断水対策の働きかけ等の具体的な取組方法等を追加しました。

第二に、給水車の大量不足への対策について、民間タンクローリーの活用や早期復旧ための対策、応援事業体が最大限の給水車を派遣するための対策等を追加しました。

ほかに、迅速に救援体制を構築するための対策として情報共有ツール活用事例を追加しました。

主な改訂・新規提案の内容は以下のとおりです。

1 医療機関の断水対策に関する改訂・新規提案

《提案2》南海トラフ巨大地震発生時の給水車不足台数を試算し、給水車の過剰要請の抑制などの対策につなげる

○改訂ポイント

東京都が、この提案に記載した試算方法例と国や医療専門学会等で公表された資料を元に試算した南海トラフ巨大地震発生時の医療機関への給水車必要台数の試算結果を参考資料として新規に掲載

《提案13》医療機関への働きかけ

○改訂ポイント

令和4年度日本水道協会「水道イノベーション賞」で大賞を受賞した取組等、医療機関に対して断水リスクを軽減するための提案と助言等実施例を掲載

《提案14》大量の水を必要とする医療機関への応急給水対策

○改訂ポイント（新規提案）

継続する医療活動を支えるためには長時間連続した応急給水活動が必要になることから交代要員・サポートカーの派遣等を提案

2 給水車の大量不足への対策に関する改訂・新規提案

《提案 3》全国の給水車保有数の維持・拡大と厳冬期の給水車による応急給水対策

○改訂ポイント

厳冬期における応急給水活動に支障をきたさないように既存給水車の寒冷地仕様への改造を提案

《提案 5》南海トラフ巨大地震発生時の最大限の給水車派遣を求められる事態を想定した特別な応援体制等を平時から検討

○改訂ポイント（新規提案）

応援事業体が最大限の給水車を応援派遣するためには、応援事業体側に大きなデメリットが生じる。そこで、平時から南海トラフ巨大地震発生時の特別な給水車の派遣体制等を検討し、その結果を各事業体の派遣計画等に反映することなどを提案

《提案 6》民間タンクローリーの活用

○改訂ポイント

前回提案を参考に飲料水等運搬用のタンクローリー車両を保有する民間会社と締結した水道事業体の締結内容（所有台数・締結事業体外への派遣の可否等）のリストを参考資料として新規に掲載

《提案 10》早期復旧のための平時の備えと発災時の対応

○改訂ポイント

平時の備えとして、被害情報の収集方法や復旧用材料の準備等を追加、発災時の対応として、被害状況の早期把握や調査、復旧方法を追加掲載